

友の会だより

孺恋郷土資料館

2014年 5月 発行

No 19

「友の会」が平成25年度総会

新会長に小林勝太郎氏

孺恋郷土資料館友の会の平成25年度総会が3月29日、資料館3階展望室で行われました。ここでは、25年度友の会の事業報告があり、特に昨年10月5日、資料館が開館30周年を迎えて盛大に記念式典が行われたことにふれ、友の会としても次への新たな前進の機会になったことが報告されました。このほか、友の会役員改選、友の会、ボランティアガイド会の在り方、規約の設定なども話し合われました。さらに26年度の事業計画案、予算案などについても協議され、松島栄治名誉館長、荒牧重雄東大名誉教授、埋蔵文化財調査事業団の関俊明氏らを講師陣に招き教養講座を開催するなどの計画が承認されました。



また、総会の記念講演会では、松島名誉館長が資料館開館30周年を振り返って、資料館の利用状況が近年特に活発になってきたとの感想を述べ、資料館が単なる観光施設としてではなく、村民を中心とした文化・歴史学習の場所であるとの認識が深まってきていると指摘。「友の会」の果たしてきた役割に触れつつ、今後に向けて各人のなおいっそうの貢献に期待を寄せました。

～ ～ ～ ○ ○ ～ ～ ～



小林勝太郎氏

なお、友の会（ボランティアガイド会も含む）役員改選によって、新執行部の陣容は次の通りとなりました（敬称略）

会長 小林勝太郎 副会長 唐沢忠夫、宮崎光男 書記 横沢正二

会計 藤原英三郎 監事 横沢彰、宮川富士夫

（ボランティアガイド会）

会長 山口岩美 副会長 坂岡士朗

※これまで会長をつとめてきた土屋澄孝氏は新たに顧問に就任し、今後とも友の会の活動を側面から支えていただくこととなりました。

ボランティアガイドの研修をかねた松島名誉館長による連続講座が、孺恋郷土資料館で行われています。

このうち4月12日に行われた第一回の講座は、「地域（孺恋村）の歴史学習」と題して、地域の歴史を学ぶ意図がありました。その中で学ぶということの歴史や社会を史は、歴史研究、身近な歴史資料を理解していつほ



黒色磨研注口土器

義などを中心に話が進められ松島名誉館長は、地域の歴史は、その上に成り立っている知ることであると指摘。地域歴史教育の基本であると訴え、活用して地域社会を積極的にしたいと要望しました。

第二回の講座は4月26日、「卓越する孺恋村の縄文文化」とのタイトルで開かれ、松島名誉館長は自らの体験を語り、昭和36、37年に行った遺跡台帳作成に関する調査の模様を紹介、孺恋村で26もの遺跡を登録することができたと述べました。これは、吾妻郡内で過半数を占める最も多い遺跡の数で、それだけを見ても、孺恋の文化レベルがいかに高かったかがわかると強調しました。

また数ある遺跡の中でも、昭和51年に村の重要文化財（史跡）に指定された東平遺跡では数々の貴重な発見があったことを紹介。「配石遺構・石囲埋葬施設（配石墓）」を確認したことで、縄文時代には、人の上下関係、貧富の差はなかったと言われてきたが、その通説を覆すような発見になったと述べました。さらに、のちに県の重要文化財に指定された「黒色磨研注口土器」一対が無傷のまま出土したことは、世間を驚かせ、文化財的価値、美術的価値から言っても大変な注目を集めることとなったと語りました。

このほか「焼人骨納入土器」「赤色塗彩土器」などについても様々な考察が行われました。

役場人事異動（孺恋郷土資料館）

黒岩勉さん、農林振興課へ

このほど役場の人事異動（4月1日付）が発令され、孺恋郷土資料館で、教育委員会主査として主に文化財の仕事をしなが、友の会の活動にも力強いサポートをしていただいた黒岩勉さんが農林振興課（主査）へ異動となりました。

学芸員の樋美沙樹さんが着任

また、新採用の職員として、樋美沙樹さんが教育委員会主事補の任命を受け、郷土資料館に着任しました。

樋美沙樹さんは、千葉大学文学部の史学科を卒業。学芸員の資格を有しており、郷土資料館学芸員として、今後の活躍に大きな期待が寄せられています。